
名前

コバヤシ ツヤコ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
名前

【コード】
N2614N

【作者名】
コバヤシ ツヤコ

【あらすじ】
認識すること、君と僕が此処に在ること。

「すみません、あなたの名前を教えてください」
僕に話しかけてきたのは、そうして話しかけられることではじめて存在を認識するような、とても影の薄い男だった。

「随分と重そうな荷物ですね」

彼は背中にも腹にも、両肩にまでもリュックを背負い、時代遅れのウエストポーチまでつけていた。そのどれもが今にもはち切れそうに膨れ上がっているので、つい目がいつてしまう。それに気づいた彼は荷物を取り出し、僕に見せた。

「これはね、ひとつひとつが大切な思い出の欠片なんです」

手に握られていたのは、いくつも重ねられた小さな紙切れ。たくさんのお名前が書いてある。彼は今まで出会ってきた人たちにずっと名前を書いてもらってきたのだと言う。

「思い出の欠片……？ だけどこれではそのうち抱えきれなくなつて、捨てなきゃいけないときがきますよ」

そんな僕の言葉に、彼は出していた手を引っ込める。そしてペンを取り出し、僕の手握らせた。

「抱えきれなくなつたらまた袋を増やして、それでも無理なら荷台を買つて、そして旅を続けますよ」

そこまでして紙の山を持ち歩く意味が分からないと言うと、彼は何やら哲学的なことを言い出した。

「この先、あなたがこの世界からいなくなつたとき、もし私がある存在を私が忘れてしまつたら、この出会いがはじめから無かつたことと同じになつてしまふとは思いませんか？ もしもそれが私だけでなく、すべての人々の心からあなたがなくなつてしまつた

としたら、あなたが最初からいなかったことと同じになってしまう
とは思いませんか？ だから私は、名前と一緒にすべての出会った
人たちのことを覚えているんです」

ふーんと聞き流しながらも名前を書いた紙を渡すと、彼はありがと
うと会釈をしてその場を去ろうとした。その後ろ姿に向けて、僕は
声をかける。

「あー、ここで出会ったのも何かの縁ですし、あなたの名前もお
聞きしていいですか」

彼は笑った。

こんな表情はこの先何度も見られないのではないかと思うほどに、
強く印象に残る笑顔だった。

たとえば君の存在がどんなに些細でも、生まれてきた意味がありま
すように。

僕の名前が、どうか少しでも長く君の心に刻まれていますように。

僕は君の名前を、覚えておこう。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2614n/>

名前

2010年11月3日01時31分発行